

健康へのメッセージ

シリーズ 120

胃の病気 (Ⅲ)

光町のみなさんこんにちわ。今回は胃の悪性腫瘍の話です。胃の病気には前回話したような徐々に大きくなる良性の腫瘍(胃ポリープなど)に対して悪性の腫瘍があります。悪性の理由は、急速に大きくなって周囲の組織に広がり、更に血液に乗って肺や肝臓に転移するためです。胃の表面の粘膜面から発生するものを胃癌と呼びます。胃の壁の中から発生する場合は肉腫と呼びます。胃肉腫は稀な病気ですが症状に乏しく、発見が遅れるため周囲に広がるが多く、極めて予後不良な疾患です。

胃癌は世界の中で日本人が多く罹患しています。日本人の年間死亡数の第1位は悪性腫瘍によるものです。第2位は心筋梗塞などの心疾患と脳血管疾患が競っています。胃癌は、最近肺癌に追い越されたとはいえ、年間約5万人の死亡が報告されています。疫学的には胃癌の危険因子として喫煙、塩分や炭水化物の過度の摂取、新鮮野菜の摂取不足が推測されています。近年、前回に述べたピロリ菌の感染の関与が注目されています。



東陽病院 院長 伊藤 文憲

胃癌に関しては日本は、その罹患率が高いこともあり検診が盛んです。癌が胃の粘膜内に留まる早期胃癌の段階で診断されて手術された胃癌では5年生存率が95%に達しています。集団検診によるバリウムを用いた胃X線検査、精密検査としての胃内視鏡検査によ

り正確な診断がなされます。人間ドックを利用する場合では、毎年の胃内視鏡による検査が行われて、早期発見されるケースが多くみられています。胃X線造影の正確な読影によるスクリーニングから胃内視鏡と組織生検により、癌であることの証明、更にその広がりや内部への進展の状態が正確に診断されます。早期胃癌の診断法に関しては日本は世界をリードしています。早期胃癌の場合には原則として胃の切除術が行われ根治が可能です。しかし、最近では内視鏡所見のみならず超音波内視鏡の進歩により癌の胃壁内の進展度やリンパ節転移の診断ができるようになり、特に表面のみの早期胃癌では内視鏡的な粘膜切除術(EMR)が行われるようになり、患者の負担の軽減が図られています。

発見時に早期の段階を超えた進行胃癌でも、癌が胃の中に留まる場合には、胃切除術と周囲のリンパ節の摘出により可成りの例で完治がなされています。2001年には日本胃癌学会から「胃癌治療ガイドライン」が発表され、胃癌に対して全国の施設での治療の標準化が行われています。

不幸にして、癌が胃から周囲臓器に広がった場合は全身的な化学療法や、さらに放射線療法を加えた集学的な治療が行われています。稀に有効な例も報告されていますが、概ね予後は不良です。

※東陽病院の休日当番日

12月23日(祝)・31日(水)・1月4日(日)
午前8時30分〜午後6時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎13335

クリスマスおはなし会



楽しい劇やおはなしを行います。

日時 12月13日(土) 午後2時〜
場所 図書館2階ハイビジョンホール
定員 80名
申込み 図書館カウンターまたはお電話でどうぞ。

おはなし会

毎週土曜日・午後2時から
『ロビンの赤いベスト』
ジャン・フィアンリー さく
(評論社)

クリスマスの7日前、7枚のベストを寒さにふるえる動物達に全部あげてしまったコマドリのロビンのおはなし。

この他にもクリスマス関連の絵本をたくさん紹介します。



＝町立図書館＝
☎3311



12月及び年末年始の休館日

12月8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)～1月5日(月)